

令和7年度長野県自主防災リーダー研修会 実施報告書

実施日：第1回 令和7年7月24日（木）
第2回 令和7年11月27日（木）

一般財団法人日本防火・防災協会

長 野 県

目 次

研修会実施概要	1
研修会日程	7
研修会受講者名簿	8

研修会資料

1) 研修会次第	10
2) ピースボート災害支援センター講義資料	11

アンケート

研修会アンケート結果	19
------------	----

その他

(報道) 伊那谷ネット「避難所の運営方法を学ぶ」	25
--------------------------	----

研修会実施概要

長野県において開催した、令和7年度長野県自主防災組織リーダー研修会の概要について報告します。

1 目的

避難所における避難者の生活環境を向上させるため、避難所における円滑な運営のあり方を学び、環境向上に資する製品等を体験する機会を設ける。

2 主催

長野県／一般財団法人日本防火・防災協会

3 後援

総務省消防庁

4 実施日時

- ・第1回：令和7年7月24日（木）10時00分から 16時00分 まで
- ・第2回：令和7年11月27日（木）10時00分から 16時00分 まで

5 会場

- ・第1回：サントミュージゼ（上田交流文化芸術センター）
長野県上田市天神三丁目15番15号
- ・第2回：伊那市防災コミュニティセンター
長野県伊那市西町5824番地

6 参加者

自主防災組織リーダー、自主防災アドバイザー、防災士 など

- ・第1回：28名（他、市町村職員26名、県職員4名）
- ・第2回：40名（他、市町村職員23名、県職員9名）

7 研修日程

6ページのとおり

8 研修概要 ※第1回、第2回とも同内容

(1) 講義

- ・講師：一般社団法人 ピースボート災害支援センター 辛嶋 友香里 氏
2011年、東日本大震災をきっかけにPBVの初期運営メンバーとして支援に携わり職員となる。全国各地で講演やPBVが持つ各種防災・減災プログラムの研修講師として活動中。国内災害の緊急支援も担当。令和6年度能登半島地震、能登半島豪雨の災害対応にも従事。
 - ・内容：能登半島地震など近年の被災地の実情や課題、実践的な対応や運営ノウハウを学ぶ研修（講義・図上演習）
- (2) 避難所関連製品展示・体験会
- ・内容：TKB等に関連する製品の展示・体験

8 研修詳細

(1) 講義

「被災地の実情や課題・運営ノウハウを学ぶ」をテーマに、PBV辛嶋氏を講師に迎え、講義形式で実施。

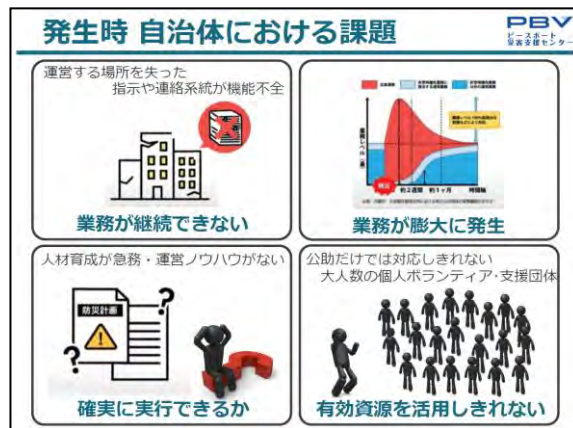
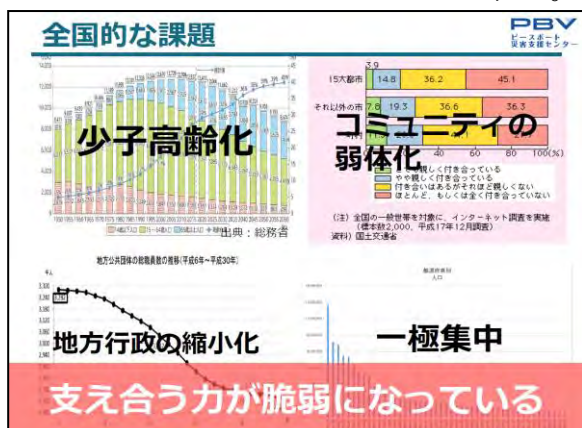


(第1回)

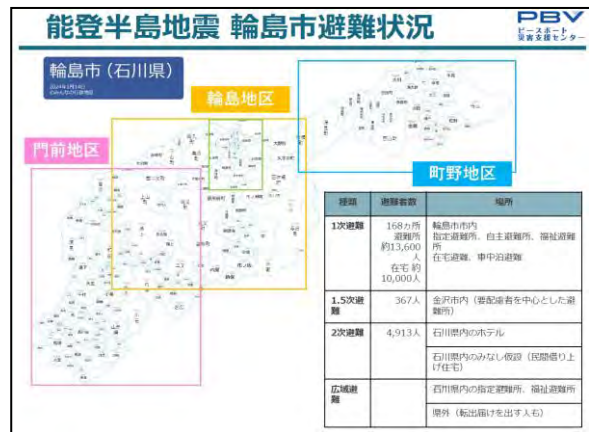


(第2回)

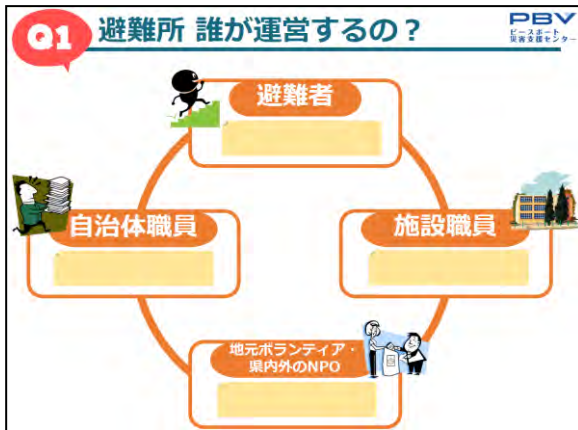
ア 大災害に襲われたら…講師が経験した近年の災害を基に災害発生時に起こり得る全国的な課題や自治体における課題を学ぶ。



…実際の被災地の状況を学ぶ。



イ 避難所の現状と課題…Q Aを交えながら、避難所運営の仕組みや避難所で発生する災害関連死について学ぶ。



ウ ハード面ソフト面のギャップ…ガイドラインの改定に基づき求められることと被災地の現状について整理する。



(2) 演習

避難所・避難生活で実際にあった事案を想定とし、グループごとに対応方法を検討。事案ごとに発表を行った後に講師からの解説を実施。





(第1回)



(第2回)

(例)「Qあなたならどうする？」…一人ひとり回答を考えグループ内で共有。

運営者編	5日後	1
Q あなたならどうする？		
本部からマスコミの取材が入ると連絡があった。到着後、避難所の中の様子も撮りたいと言ってきた。許可する？		
A 許可する		B 許可しない
+1 ONE それぞれ選んだ意見に、プラスのアイデアを！(配慮や工夫)		

被災者編	4ヶ月後	10
Q あなたならどうする？		
今日、役所で建設型仮設住宅の鍵の受け渡しと内見があった。しかし、家電や布団などの生活用品はまだ揃っていない。避難所に戻ると、運営者から「明日退所できますね」と言われた。避難所に迷惑をかけるので明日仮設住宅に引っ越す？もう少し避難所に留めてもらう？		
A 明日引っ越す		B もう少し避難所に留まる
+1 ONE それぞれ選んだ意見に、プラスのアイデアを！(配慮や工夫)		



(第1回)



(第2回)

(3) 避難所関連製品展示・体験会

県内企業を中心に避難所・避難生活に関連する製品の業者展示を実施。

(第1回)



(第2回)



【展示会参加企業】

企業名	展示物品
テレネット株式会社	ハザードトーク
長野県食品・生活衛生課	ペット同行避難スターターキット
A C Tヨコイ株式会社	応急給水栓
株式会社寺田ポンプ製作所	洪水対策用配水ポンプ
有限会社デнда	防災備蓄用製品
赤城工業株式会社	防火服、段ボールベッド
川島商事株式会社	防災備蓄用タンク
株式会社ハネマツ	災害用仮設トイレ
株式会社昭栄商会	パーティション、折りたたみベッド
尾西食品株式会社	アルファ米他保存食
株式会社C-SOS	簡易トイレ、消耗品
株式会社コウサカ	非常用トイレ
株式会社塚博	マットレス全般
千曲運輸株式会社	ドローン関連機材
エアーストレチャー	エアーストレチャー、簡易ベッド
コンビウイズ株式会社	赤ちゃん用段ボールベッド
飯田機械ポンプ商会	仮設型トイレ
ながの移動販売つなぎ局	キッチンカー展示、パネル展示
株式会社ミヤサカ工業	災害支援車
株式会社信防エディックス	間仕切りテント、ベッド
株式会社ウイズファーム	おかゆ
W O T A株式会社	手洗いスタンド

研修会日程

【第1回】令和7年7月24日（木）サントミュージゼ

【第2回】令和7年11月27日（木）伊那市防災コミュニティセンター

時間	内容
9:30	○受付
10:00	○開会 ○主催者挨拶（長野県危機管理防災課）
10:05 ～11:30	○研修会（講義）
11:30 ～13:30	○避難所関連製品展示・体験会
13:30 ～15:55	○研修会（演習）
15:55 ～16:00	○講評（長野県危機管理防災課）
16:00	○終了

研修会資料

令和7年度 避難所の生活環境向上に係る研修会（第2回）

次 第

日時：令和7年11月27日（木）10時00分～16時00分

場所：伊那市防災コミュニティセンター

【主催】長野県 【共催】日本防火・防災協会

1 開 会

2 主催者あいさつ

3 研 修

（1）講 義

「能登半島地震など近年の被災地の実情や課題、実践的な課題や運営ノウハウを学ぶ」

≪講師≫ピースボート災害支援センター 辛嶋 友香里 氏

（休憩）

避難所関連製品展示・体験会 第1～3研修室（11：30～13：30）

（2）演 習

「避難生活を考える図上演習」

4 閉 会

※ 第1回についても同内容

実践と防災・減災のサイクル

PBV
防災・減災

災害時と平時

互いの役割がより明確になるために

災害時

平時



Contents

PBV
防災・減災

- 01 大災害に襲われたら…
- 02 避難所の現状と課題
- 03 最新のガイドラインの改定からみるハードとソフトのギャップ
- 04 図上演習「ソウテイ+1」
避難所・避難生活シミュレーション
- 05 全体共有・解説

PBVの避難所支援

PBV
防災・減災

これまでの被災地支援活動において

141か所以上の避難所で支援を実施

・2011年	東日本大震災（宮城県石巻市）	60か所
・2014年	広島土砂災害（広島県広島市）	2か所
・2015年	関東・東北豪雨（茨城県常陸市）	1か所
・2016年	熊本地震（熊本県益城町、熊本市、西原村）	17か所
・2017年	九州北部豪雨（福岡県東峰村）	1か所
・2018年	西日本豪雨（岡山県倉敷市）	5か所
・2018年	北海道胆振東部地震（北海道厚真町）	4か所
・2019年	九州北部豪雨（佐賀県大町町）	2か所
・2019年	台風15号（千葉県南房総市）	1か所
・2019年	台風19号（福島県いわき市）	1か所
・2020年	7月豪雨（熊本県球磨村、大分県日田市）	3か所
・2021年	7月豪雨（熱海市土砂災害（静岡県熱海市）	2か所
・2021年	8月豪雨（佐賀県大町町、宮崎市）	6か所
・2024年	熊本半島地震（石川県輪島市、珠洲市）	……
・2024年	9月島根豪雨（石川県輪島市）	……

※その他、各年度別・事例別支援活動の詳しい実施状況は上記の通りです。

大災害に襲われたら…

深刻化する気候変動と自然災害

PBV
防災・減災



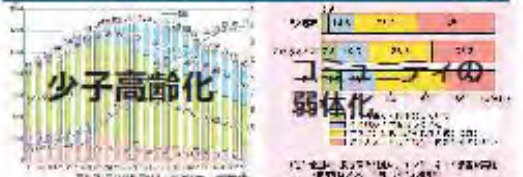
2014年 広島土砂災害 2015年 関東東北豪雨 2017年 九州北部豪雨



2018年 早瀬30年7月豪雨 2019年 台風15号/19号 2020年 令和2年7月豪雨

全国的な課題

PBV
防災・減災



地方行政の縮小化 一極集中

支え合う力が脆弱になっている

発生時 自治体における課題

PBV
防災・減災



防災時に実施すべき17の対策項目

PBV
防災・減災

災害対応ガイドライン

1. 避難所の確保	避難所の確保は、避難生活の基盤となる。避難所の確保は、避難生活の基盤となる。避難所の確保は、避難生活の基盤となる。
2. 避難所の運営	避難所の運営は、避難生活の基盤となる。避難所の運営は、避難生活の基盤となる。避難所の運営は、避難生活の基盤となる。
3. 避難所の安全確保	避難所の安全確保は、避難生活の基盤となる。避難所の安全確保は、避難生活の基盤となる。避難所の安全確保は、避難生活の基盤となる。
4. 避難所の情報提供	避難所の情報提供は、避難生活の基盤となる。避難所の情報提供は、避難生活の基盤となる。避難所の情報提供は、避難生活の基盤となる。
5. 避難所の物資供給	避難所の物資供給は、避難生活の基盤となる。避難所の物資供給は、避難生活の基盤となる。避難所の物資供給は、避難生活の基盤となる。
6. 避難所の衛生管理	避難所の衛生管理は、避難生活の基盤となる。避難所の衛生管理は、避難生活の基盤となる。避難所の衛生管理は、避難生活の基盤となる。
7. 避難所の心理ケア	避難所の心理ケアは、避難生活の基盤となる。避難所の心理ケアは、避難生活の基盤となる。避難所の心理ケアは、避難生活の基盤となる。
8. 避難所の地域連携	避難所の地域連携は、避難生活の基盤となる。避難所の地域連携は、避難生活の基盤となる。避難所の地域連携は、避難生活の基盤となる。
9. 避難所のボランティア	避難所のボランティアは、避難生活の基盤となる。避難所のボランティアは、避難生活の基盤となる。避難所のボランティアは、避難生活の基盤となる。
10. 避難所の情報収集	避難所の情報収集は、避難生活の基盤となる。避難所の情報収集は、避難生活の基盤となる。避難所の情報収集は、避難生活の基盤となる。
11. 避難所の情報発信	避難所の情報発信は、避難生活の基盤となる。避難所の情報発信は、避難生活の基盤となる。避難所の情報発信は、避難生活の基盤となる。
12. 避難所の情報共有	避難所の情報共有は、避難生活の基盤となる。避難所の情報共有は、避難生活の基盤となる。避難所の情報共有は、避難生活の基盤となる。
13. 避難所の情報連携	避難所の情報連携は、避難生活の基盤となる。避難所の情報連携は、避難生活の基盤となる。避難所の情報連携は、避難生活の基盤となる。
14. 避難所の情報活用	避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。
15. 避難所の情報活用	避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。
16. 避難所の情報活用	避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。
17. 避難所の情報活用	避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。避難所の情報活用は、避難生活の基盤となる。

輪島市 地震 被害状況



2024年1月1日 最大震度7地震発生



能登半島地震 避難状況



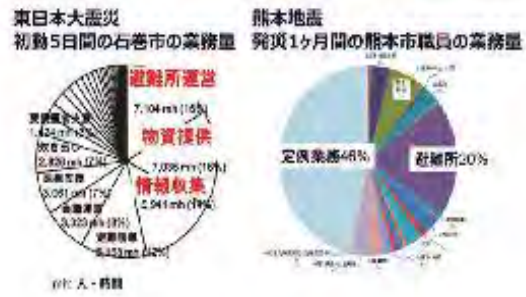
人命救助・孤立地域の解消急務



能登半島地震 輪島市避難状況



自治体の災害対応で業務量が多いものは？

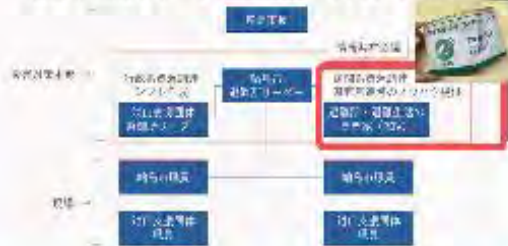


輪島市 PBVの活動経緯



- 2024年1月3日...
- 定例会・定例生活アドバイザーとして市内全域の避難生活コーディネーション
 - 各避難所の運営ケースマネジメント等
 - その他、情報交換も実施

輪島市避難所リーダーを行政・専門家で支援



自治体の災害対応業務 (一例)



避難所の現状と課題

避難所の重点課題



大切な3つの 避難所運営の仕組み

01 避難所 誰が運営するの？



02 自主運営というけれど...

避難所の自主運営とは？



避難者が運営に参加できる環境を整える

03 避難所とは？



「避難所運営ガイドライン」
2016年4月・内閣府（防災担当）発表



被災者がいる場所は、
避難所 だけではない。

さまざまな避難先

在宅避難



車中泊



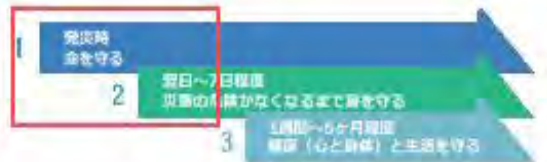
軒先・ビニールハウス



- > 親戚宅
- > 公民館・公会堂
- > 公園・私立の施設・学校
- > ホテル・旅館
- > お寺・神社・教会
- > 地域外への広域避難

etc.

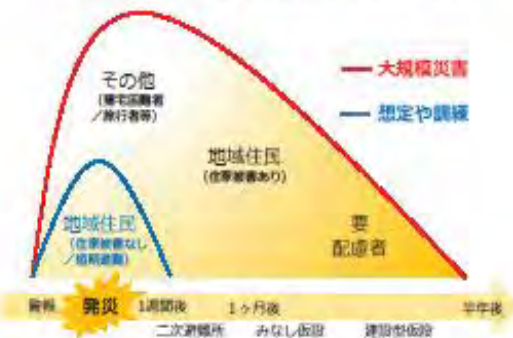
「ひなんじょ」って？



想定 1～3日…7日

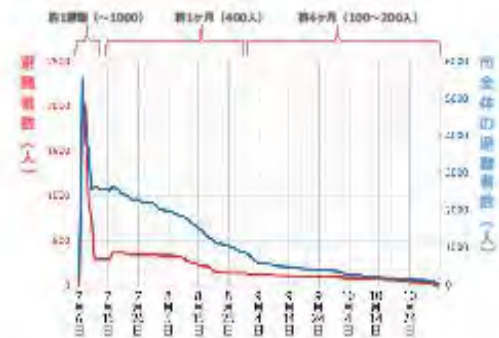
避難者数の推移（指定避難所）

避難者数も、開設期間も想定を大きく超える。



避難所の開設期間

ピーク時最大2,000人の避難所の例



命をつなぐ避難所で亡くなる人も

PBV
防災センター



避難生活(暮らし)をイメージした、
中長期の避難所運営が考えられていない。

災害関連死の主な原因

PBV
防災センター

東日本大震災		熊本地震	
新生活による疲労	838	原因	人数
避難中の移動による疲労	401	1. 避難先での生活	200
震災の過剰被害による被害	203	2. 避難先での生活	77
地震対策のストレスによる被害	150	3. 避難先での生活	15
避難先での生活による被害	80	4. 避難先での生活	18
地震対策のストレスによる被害	34	5. 避難先での生活	1
その他	125	6. 避難先での生活	1
不明	12	7. 避難先での生活	1
		8. 避難先での生活	10
		9. 避難先での生活	10
		10. 避難先での生活	10

(調査対象: 19,322人, 2012年, 復興庁調べ)
(調査対象: 197人, 2017年, 毎日新聞調べ)

7割以上が避難生活が原因

災害関連死のリスクが高い人と支援者の関係

状態	状態	対応策
ハイリスク者	▼ 医療・福祉の専門対応が必要な人 ・ 高齢者が多い ・ 避難先での生活が難しい ・ 避難先での生活が難しい ・ 避難先での生活が難しい ・ 避難先での生活が難しい	医療・福祉の専門対応 ・ 医療、介護、福祉、保健、福祉心理士、介護福祉士等
ハイリスク予備軍	▼ 脆弱性は高くないが、生活に支障のある人 ・ 立ち上がる、走る、歩くなどの動作が困難 ・ 認知や判断能力の低下が懸念される ・ 意思が固く、柔軟性がない ・ 能力で対応しきれない ・ 能力で対応しきれない ・ 能力で対応しきれない	地域の住民 ボランティア NPO・NGO 在宅医療・看護・福祉、保健の専門職等
脆弱性増大	▼ 一見普通ではあるが、生活のリズムや役割、対応方法、活力を自ら見いだせていない人 ・ 1人で生活している ・ 一人で生活している ・ 一人で生活している	近隣のマンパワー不足
脆弱性増大	上記の状態ではないが、通常の支援では対応しきれない状態に陥りかねる可能性がある	地域の住民 ボランティア NPO・NGO

支援調整窓口の必要性

PBV
防災センター

被災地に支援がつながるまでの流れ

(被災地側の例)

- 電話が通じませんが、緊急に助けを求めたい
- リーダーや自治会の中心となる人がいない
- 自治会が壊滅し、自治会が機能していない
- 自治会が壊滅し、自治会が機能していない
- 自治会が壊滅し、自治会が機能していない

(支援者側の例)

- 11,000名以上の被災者が、支援を受けたいが、支援を受けられない
- 被災地には支援者がいない
- 被災地には支援者がいない
- 被災地には支援者がいない

(課題)

こういった状況を解決するために、支援調整窓口が求められ、調整し、お繋ぎします。

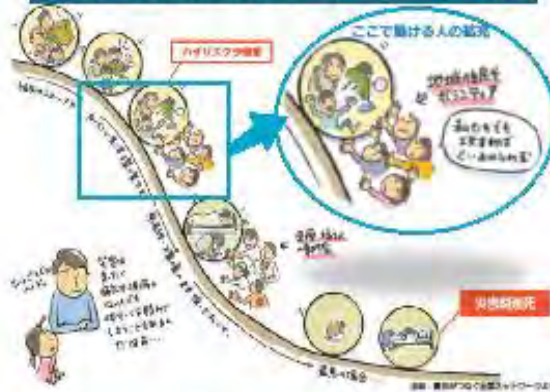
大きな課題「災害関連死」

PBV
防災センター



災害関連死を防ぐアプローチ

PBV
防災センター



生活機能低下と災害関連死



市内全域の支援の総合調整窓口

PBV
防災センター

被災地に支援がつながるまでの流れ



例) 支援調整窓口の取り組み



期間：2024年1月15日から開設～継続実施中

運営：市から依頼を受けて、PBVにて運営協力

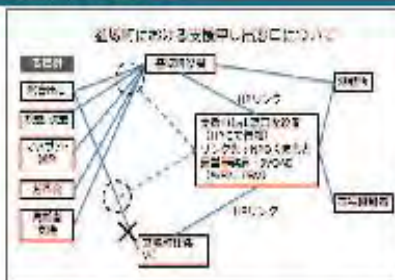
支援申し出数：約1,700件
 マッチング数：約1,500件
 繋ぎ先件数：約2,300件

支援先：輪島市内全域

- 指定避難所、自主避難所、福祉避難所
- 在宅避難地域
- 仮設団地
- 福祉施設
- 医療施設
- 教育施設（保育園、幼稚園、児童クラブ、小学校、中学校、高校等）
- 公共施設
- 地域の公民館、学生会、神社、寺等
- 地域施設、商店
- 行政、社協 etc



過去の被災地でも



- [PBVの支援調整におけるノウハウ]
- 2011年・東日本大震災…自衛隊と連携し出し場所の調整、福祉ボランティア活動場所の調整
 - 2015年・関東・東北豪雨…津波以外のボランティア活動の調整
 - 2016年・熊本地震…多様な支援団体・支援メニューの実施場所の調整
 - 2018年・西日本豪雨…多様な支援団体・支援メニューの実施場所の調整、物資調整
 - 2019年・九州北部豪雨…物資調整
 - 2024年・徳島平島地震/徳島平島豪雨…輪島市：多様な支援団体・支援メニューの実施場所の調整

避難所運営の業務・役割



準備期	緊急期	恒定期	退避期	
被災者の状況とニーズ	食の確保	“生きること”から“生きろ”へ	コミュニティの再生	
(一例)				
受付	物資	食事	居住スペース	衛生環境
要配慮者対応	ペット	健康維持	施設整備	イベント
個別ケース	情報	運営体制	連携調整	ボランティア受け入れ

避難所運営・避難生活



目配り・気配り・心配りするポイントは？



さまざまな支援（県内外・地域支援者）



避難所の機能



災害の危険から

中長期的な避難生活を送る施設

としての役割

- ・ 食料、トイレ、暖房、風呂、洗濯などの基本的な生活機能を生かす
- ・ 仕事・学校、病院、買い物、情報や人とのつながりを保たれる「生活（暮らし）の場」
- ・ 心と身体の状態を維持し、健康を守る
- ・ 住まいを失い、地域での生活を失った被災者の集り所
- ・ 在宅で不自由し暮らしを送る被災者の支援拠点
- ・ 地域に住むすべての人にとって生活再建やコミュニティの拠点場所となるような機能

避難所運営・避難生活



目配り・気配り・心配りするポイントは？



ハードとソフト… 準備と運用のギャップ

トイレの設置と運用のギャップ



食事調整の実態

【調査4】 食A出しチェックシート

食A出しの現状を把握し、課題を抽出し、改善策を提示するためのチェックシートです。

1. 食A出しの現状

- 食A出しのメニューは、どのようなものがあるか？
- 食A出しのメニューは、どのような特徴があるか？
- 食A出しのメニューは、どのようなニーズに応えているか？
- 食A出しのメニューは、どのような課題があるか？

2. 食A出しの課題

- 食A出しのメニューは、どのような課題があるか？
- 食A出しのメニューは、どのような課題があるか？
- 食A出しのメニューは、どのような課題があるか？

生活空間

Q 必要な広さは？ 整理のタイミングは？ 統廃合は？

スフィア・プロジェクト

最低3.5㎡/1名

日本のガイドライン

約3.3㎡/2名

※1名あたり1畳分

政府が遊戯所運営に関する自治体向けの指針を改定

厚生労働省が遊戯所運営に関する自治体向けの指針を改定した。2021年10月1日より施行される。

1. 遊戯所の概要

- 遊戯所の定義
- 遊戯所の役割
- 遊戯所の設置基準

2. 遊戯所の運営

- 遊戯所の運営方針
- 遊戯所の運営体制
- 遊戯所の運営計画

トイレトレーラーの例



改善例 2020年九州豪雨災害 球磨村



種類は様々。個人の意見も尊重する

段ボールベッド

寝具は？

パーティション

高さ

種類

「避難の場」から「生活の場」へ

PBV
Peace Care
Disaster Relief



生活用水・入浴支援

PBV
Peace Care
Disaster Relief



早期発見、早期対応が一日も早い生活再建へ

PBV
Peace Care
Disaster Relief

避難所・避難生活シミュレーション ソウテイ

あなたはA派?B派?
それともC派? **+1** を考える
ONE

PBV
Peace Care
Disaster Relief

個別のニーズ把握・対応

一人ひとりの
個別ケース対応

避難所内の環境整備

健康維持

生活の見通し

避難所の早期閉所
(次の住まい、生活用品の確保)
に繋がる

個別のニーズ把握・対応

**現場ヒアリング
災害ケースマネジメント**

家族構成や生活面、健康面、生活再建状況などについて現状の確認と、ニーズや困りごと、不安なことなどの

情報共有会議の運営サポート

行政、社協、避難団体、NPO、企業、自治会など **支援者間で情報共有** を行い、支援のモレやムラを防ぐ

3つのPoint

PBV
Peace Care
Disaster Relief

- ✓ 中長期の避難所運営・避難生活をイメージし、理解する
- ✓ 災害時に直面するさまざまなシーンを想定して、平時の準備と有事の困難のキャップを定める
- ✓ 避難所運営は、全庁、県内外の支援者、市民など多種多様な人々との共通認識、連携の必要性を理解する

市民

各種支援団体

自治体職員!!

災害時に守るべきもの

命

生活

尊厳

日常生活で守るべきもの

アンケート

PBV
Peace Care
Disaster Relief

研修会に参加した感想をお聞かせください。



紙のアンケート用紙も
ご用意しております。

ご購入の方はスタッフまで
お声掛けください。

補足資料

研修会アンケート調査結果

1 アンケート内容

※第1回、第2回同内容

「避難所の生活環境向上に係る研修会」に関するアンケート調査 御協力をお願い（開催地：上田市サントミュージゼ）

本日は、当研修にご出席いただきありがとうございます。お手数ではございますが、アンケート調査にご協力をお願いします。調査結果は今後の研修内容を充実させるための参考にさせていただきます。

1. ご記入者、防災業務経験年数を伺います。

(1) 属性

ア. 県職員 イ. 市町村職員 ウ. 自主防災リーダー エ. 防災士 オ. その他

(2) 防災業務経験年数

ア. 1年未満 イ. 1-3年未満 ウ. 3-5年未満 エ. 5-10年未満
オ. 10-20年未満 カ. 20年以上

2. 講義（講師：辛嶋友香里氏）を受けた感想を伺います。

(1) 講義内容はどの程度理解できましたか？

ア. 理解できた イ. ある程度理解できた ウ. あまり理解できなかった
エ. 理解できなかった

(2) 講義内容は今後の実務に役立つと思いますか？

ア. 大変役立つ イ. 役立つ ウ. ふつう エ. あまり役に立たない

(3) 今回の研修は今後も必要でしょうか？

ア. 毎年開催してほしい イ. 2～3年に1回は開催してほしい
ウ. 必要ない エ. わからない

(4) 講義のご感想、ご意見や、今後の講義に望まれること等記入願います。

【良かった点】

【改善してほしい点】

3. 展示会に参加した感想を伺います。

(1) 展示内容はどの程度理解できましたか？

ア. 理解できた イ. ある程度理解できた ウ. あまり理解できなかった
エ. 理解できなかった

(2) 展示内容は今後の実務に役立つと思いますか？

ア. 大変役立つ イ. 役立つ ウ. ふつう エ. あまり役に立たない

(3) 今回の展示会は今後も必要でしょうか？

ア. 毎年開催してほしい イ. 2～3年に1回は開催してほしい
ウ. 必要ない エ. わからない

(4) 展示会のご感想、ご意見や、今後の展示会に望まれること等記入願います。

【良かった点】

【改善してほしい点】

4. 研修会全体を通しての感想を伺います。

(1) 研修時間の長さ
ア. 適切な長さだった イ. もう少し短くてよい ウ. もう少し長くてよい

(2) 開催時期
ア. 適切な時期だった イ. 他の時期の方がよい

(3) (2) でイと回答した方
【参加しやすい日程があればお書きください】

(4) 今回の研修会はいかがでしたか？
ア. 大変役だった イ. やや役立った ウ. ふつう エ. あまり役に立たなかった

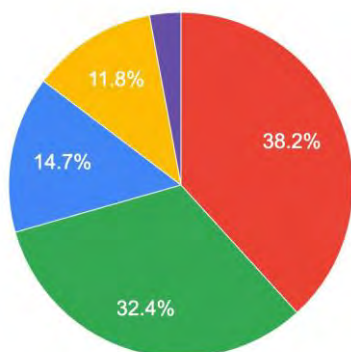
(5) 研修会全体のご感想、ご意見や、今後の展示会に望まれること等記入願います。
【良かった点】
【改善してほしい点】

2 アンケート結果（第1回、第2回含め）

(1) 回答数 55件

(2) 集計結果

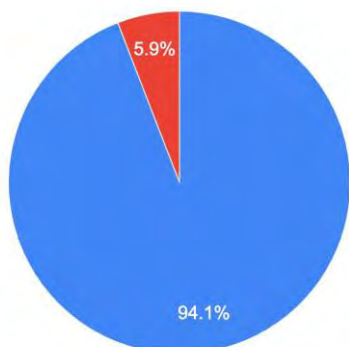
ア 回答者属性



市町村職員	38.2%
防災士	32.4%
県職員	14.7%
自主防災リーダー	11.8%
その他	5.9%

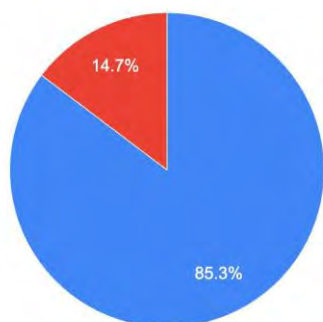
イ 講義の満足度

Q1 「講義内容は研修内容は理解できましたか？」



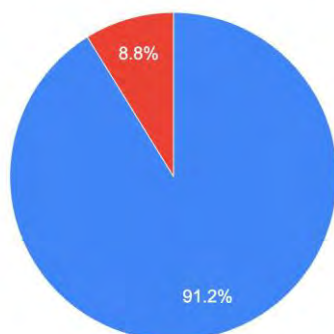
理解できた	94.1%
ある程度理解できた	5.9%

Q 2 「講義内容は今後の実務に役立つと思いますか？」



理解できた	94.1%
ある程度理解できた	5.9%

Q 3 「今回の研修は今後も必要でしょうか？」



毎年開催してほしい	91.2%
2～3年に1回は開催してほしい	8.8%

Q 4 「講義のご感想、ご意見や、今後の講義に望まれること」

【良かった点（第1回）】

- ・ワークの内容
- ・経験者の方のお話が非常に勉強になりました。
- ・具体的にイメージできた、他の視点からの意見も聞けて良かった。
- ・答えのない問題を多様な参加者と一緒に考えることができ良かった。
- ・実際の事例について色々な立場の人の意見が聞けました。
- ・実践で考えなければならないことが沢山あり勉強になった。
- ・色々な立場での思いや考え方など難しく考えてしまいましたが、能登での活動を振り返りながら改めて勉強になりました。
- ・避難所の環境を実例から捉え考える内容はリアリティがあり参考になった。
- ・講義の内容を演習に活かすことができ良かった、様々な考え方を持つメンバーと議論出来て良かった。

【良かった点（第2回）】

- ・実際に起こった災害、避難所での事例を交えて講義いただいた点。
- ・避難所の運営側、避難者側双方の視点から考えることができた。
- ・避難所運営に係るケーススタディでしたが、様々な意見がありその認識を合わせていくことの必要性を学ぶことが出来た。

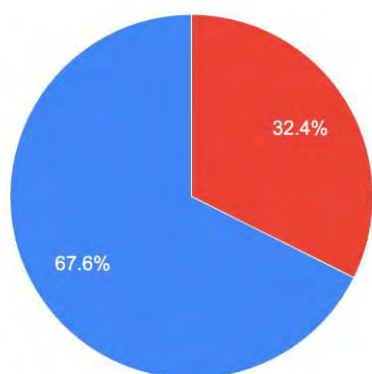
- ・直ぐにでも役立って解りやすく、皆で共有していくことが大切だと感じた。
- ・地域の防災学習に役立てられそう、ワークショップが良かった。
- ・自主防災組織の方とワークを共にできたのは避難所を設営する上で参考になる意見や視点が多かった。
- ・グループ内で自分一人が違った意見の時の説明を考えるのが逆に楽しかった。講義、演習とも時間的に丁度良かった。

【改善してほしい点（第1回/第2回）】

- ・実際に即したワークを沢山行ってほしい。
- ・1問あたりの時間を少し減らして講師の開設時間を増やしてほしい。
- ・今後防災、減災のための平時からの地域活動や地域住民への啓発活動についての研修を実施してほしい。
- ・当区にも外国人が多く住んでおり、避難所での対応の仕方等について知りたい。

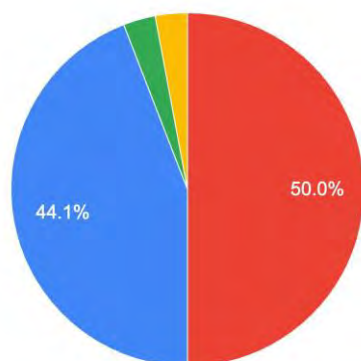
ウ 展示会の満足度

Q 1 「展示内容はどの程度理解できましたか？」



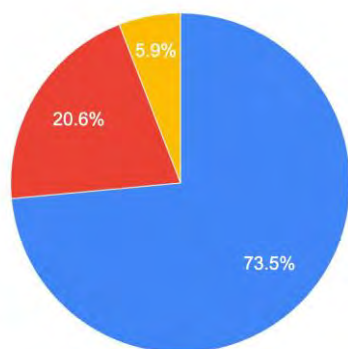
理解できた	67.6%
ある程度理解できた	32.4%

Q 2 「展示内容は今後の実務に役立つと思いますか？」



大変役立つ	44.1%
役立つ	50.0%
ふつう	
あまり役立たない	

Q 3 「今回の展示会は今後も必要でしょうか？」



毎年開催してほしい	73.5%
2～3年に1回は開催してほしい	20.6%
必要ない	5.9%

Q 4 「展示会のご感想、ご意見や、今後の展示会に望まれること」

【良かった点（第1回/第2回）】

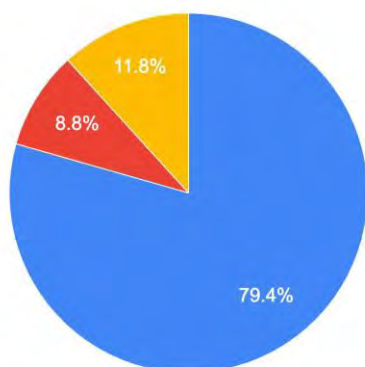
- ・ 様々な分野の展示があったこと。
- ・ 新しい製品を実際に直に見られるのが良い。
- ・ 業者の説明が分かりやすかった。
- ・ 同じ物でも企業ごとに様々で多くの種類を見られたのが良かった。
- ・ 避難所の様々な課題を企業の努力、創意工夫で解決していることが判った。
- ・ 初めてだったので全てが新鮮で災害に特化した製品が数多く開発されていることに感心した。
- ・ 地元にも非常食ととして使えるものもあるので、紹介していきたい。
- ・ 災害グッズ等は常に進化していて、実際の展示物を見てみないと分からないものもあるので、とても参考になった。

【改善してほしい点（第1回/第2回）】

- ・ 会場がやや狭い。
- ・ 会場のスペース、換気の徹底。
- ・ 地域の共助として可能な救出や救護の初動対応訓練等が体験できるものがあっても良かった。

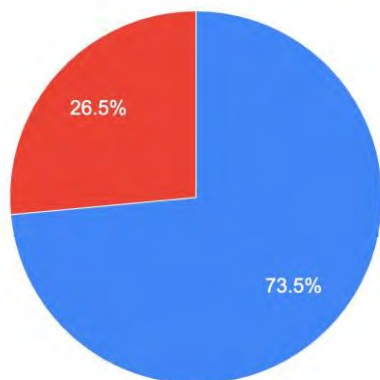
エ 研修会全体を通しての満足度

Q 1 「研修時間の長さは？」



適切な長さだった	79.4%
もう少し短くてよい	8.8%
もう少し長くてよい	11.8%

Q 2 「開催時期は？」

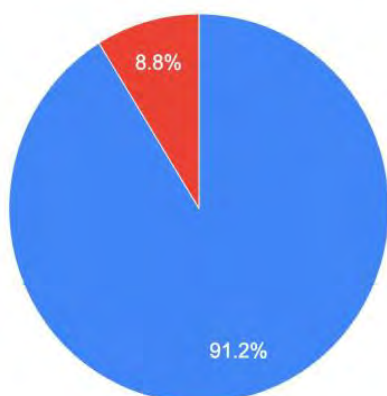


適切な時期だった	73.5%
他の時期の方がよい	26.5%

Q 2 - 2 「参加しやすい日程は？」

- ・ 5月～6月。各自治体の防災訓練が9月頃多いのでこの時期なら研修内容を地域の防災訓練等にも反映できる。
- ・ 感染症の少ない時期。

Q 3 「今回の研修会はいかがでしたか？」



大変役に立った	91.2%
やや役に立った	8.8%

Q 4 「研修会全体のご感想、ご意見や、今後の研修会に望まれること」

【意見】

- ・ 参加することでネットワークも出来る、とても良い機会だと思う。
- ・ 事後の業務や備品準備の参考になりました。
- ・ ワークが合って同じテーブルの経験豊富な方の話を聞けたり会話をしながら進められたことが良かった。
- ・ 色々な立場の方と触れあう機会が持てて良かった。
- ・ 自治体担当者以外（防災士等）の参加がとても良い、色々な視点があり勉強になる。
- ・ 運営者、被災者、行政、学校など様々な視点で考えることで、今後もそうした人たちの思いを考えて動くことができる。
- ・ 避難所のリアルを知ることができて良かった。

(報道) 伊那谷ネット「避難所の運営方法を学ぶ」

●2025/11/27 (木) 伊那谷ねっと

ニュース

避難所の運営方法学ぶ

2025年11月27日(木)

被災地の現状や課題から避難所運営を学ぶ研修会が27日、伊那市防災コミュニティセンターで開かれました。

研修会では被災地での災害支援活動を行っている公益社団法人ピースポート災害支援センターの辛嶋友香里さんが、避難所の現状と課題について話をしました。

辛嶋さんは災害が発生したときの自治体の課題として膨大な業務が発生するほかボランティアや支援団体を有効に活用しきれていないなどを挙げていました。

そのうえで、避難所の運営主体は避難者でボランティアはそのサポートをし、自治体職員は避難者の要望を聞き政策につなげるなど役割分担をすることで避難所運営が成り立つと話していました。

避難所では何もすることがないなど無気力になると災害関連死のリスクが高まることから、避難者が避難所運営に参加できる環境を整えることが重要だということです。

研修会は避難所の生活環境を向上させるための適切な運営方法を学んでもらおうと長野県が開いたもので市町村の防災担当者や地域の自主防災リーダーなど約80人が話を聞きました。

